



# 来て 見て 触れて むかし探検 ～総集編～

「来て 見て 触れて むかし探検」は、平成23年4月～24年3月まで、「広報かたの」で連載されていた記事です。昔の人々の生活の痕跡や、遺跡から出土したのちから分かった交野の歴史を、それぞれの時代ごとに分かりやすく紹介しています。連載終了にあたり、総集編として、発行順にまとめました。記載の内容は発行時のままであり、イベント情報などは過去のものであることをご了承ください。

# 目次

表紙	…	1
目次	…	2
平成 23 年 4 月 1 日号 旧石器時代のハンター	…	3
5 月 1 日号 縄文時代の暮らし	…	5
6 月 1 日号 稲作と争いのはじまり	…	7
7 月 1 日号 古墳時代の交野の豪族	…	9
8 月 1 日号 古墳時代の新しい暮らし	…	11
9 月 1 日号 飛鳥・奈良時代の寺院と役所	…	13
10 月 1 日号 平安時代の交野	…	15
11 月 1 日号 鎌倉時代のパワースポット交野	…	17
12 月 1 日号 戦国時代の戦乱の中で	…	19
平成 25 年 1 月 1 日号 江戸時代の交野	…	21
2 月 1 日号 明治から昭和へ	…	23
3 月 1 日号 総集編	…	25



# むかし探検

No. 1  
～旧石器時代の  
ハンター～

今月号から、昔の人々の生活の痕跡や、遺跡から出土した色々なものから分かった交野の歴史を、それぞれの時代ごとに子どもにも分かりやすく紹介します。

また、「来て・見て・触れて むかし探検」と題しているとおり、この連載と連動して、交野の遺跡を歩く「遺跡たんけんツアー」や、実際に石器などの発掘出土品に触れる「考古学教室」を計画しています。子どもはもちろん、ぜひ大人も「来て」「見て」「触れて」、歴史を体験してみてください。

まずは、5月に「遺跡たんけんツアー」の参加者を募集します。

第1回は、旧石器時代の交野がテーマです。旧石器時代は、石をたたき割って作った道具である石器を使って、狩りをしながら生活していた時代です。

旧石器時代は、今よりもずっと寒かった氷河時代が終わる頃で、海の水が凍っていたので、海の表面は今よりも100℃くらい低くなっていました。

そのため、現在の大阪湾や瀬戸内海は陸地だったと考えられています。

このころの地層からは、オオツノジカやナウマン象などの人間よりもずっと大きな動物の化石が見つかります。

交野からは動物の骨はまだ見つかりませんが、旧石器時代の交野の人たちも、これらの大きな動物を狩って、ハンターのような生活していたのかもしれません。

交野で見ついている一番古い遺跡は、この旧石器時代の終わり頃の遺跡で、約2万9,000年～1万5,000年前のものです。神宮寺遺跡と星田にある布懸遺跡の2つが有名です。



図1 旧石器時代終わりごろの日本列島

## 神宮寺遺跡

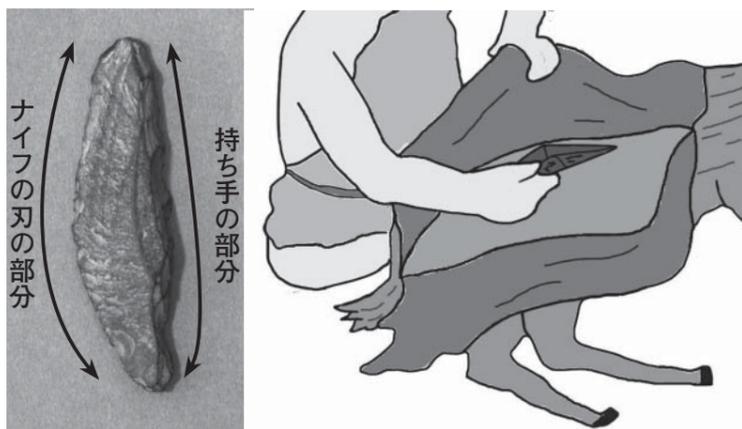


図2 ナイフ形石器と使い方

神宮寺といえばブドウ畑が有名ですが、まさにその畑の地下に、旧石器時代から縄文時代の遺跡が残されています。

旧石器時代の出土品としては、神宮寺から交野山へと続く「石仏の道」の登り口近くのブドウ畑で、ナイフ形石器(図2)などが採集されています。

このナイフ形の石器は、狩りのときには木の棒の先につけて投げ槍として使ったり、狩った獲物の皮をはぎ取り、解体するときの包丁として使ったりと、旧石器時代のハンターにとっては欠かせない道具だったとみられています。

## 布懸遺跡

布懸遺跡は、旭小学校のすぐ南側にあります。その中でも、NTT星田住宅を建てるときの発掘調査で、旧石器時代の石器が見つかりました。

ここでは、神宮寺遺跡で見つかった石器よりも、小形のナイフ形石器と、石器を作る元になったとみられる石や、石を叩き割って石器に加工したときに出たと思われる小さな石の破片が多く見つかりました。

そのため、ここは石器を作る場所だったのではないかと考えられています。

## 交野山

交野山では、山頂にある岩の割れ目に刺さっていた石器を、昭和52年に第二中学校の生徒が発見しました。

この石器は、旧石器時代の終わりごろから縄文時代の始めごろに使われた「有舌尖頭器」(図3)です。

舌の部分に棒をつけて、投げ槍か投げ矢として、狩りに使っていたと考えられています。

この頃のハンターが、交野山の山頂まで登っていたのが、後の時代の人々が別の場所で拾ったものを、山頂まで運んだのが分かりませんが、みなさんも色々な理由を想像してみてください。



図3 有舌尖頭器

## 旧石器時代を考古学してみよう

今回紹介した旧石器時代の遺跡である神宮寺遺跡と布懸遺跡も、市内の高台にあります。

また、昨年開通した第二京阪道路を建設するとき、市内のとても広い範囲を発掘調査して、多くの遺跡が発見されましたが、旧石器時代の生活の跡は、比較的高い丘の上にある上の山遺跡で少し見つかったただけでした。

このことから、旧石器時代の人たちは高台で生活していたことが分かります。当時の人たちの狩りをする生活には、見晴らしの良い山のふもとや丘が良かったのでしょうか。

このように発掘などの事実から、順序立てて考えるのが考古学の方法です。来月以降もいろいろなことを紹介しますので、みなさんも自分なりの考古学をしてみてください。



旧石器時代の遺跡

神宮寺遺跡や布懸遺跡のように何万年も前の遺跡が、私たちの身近にあることにびっくりした人もいでしょう。

これらの遺跡の周辺には、まだまだ開発されていない地域もあるので、旧石器時代のハンターたちが駆け巡った痕跡で、まだ見つからないものもあるかもしれません。

交野の山などを歩きながら、地面を探してみると石器を見つけられるかもしれません。

石器やそれらを作った石には、図3の石器の表面にあるような石などで打った跡があります。

「石器かな?」と思ったら文化財事業団までご連絡ください。なお、遺跡内の地面を勝手に掘ると、法律違反になります。落ちていた石だけを探そうをお願いします。

## 歴史クイズ

### 問題

左の図1には、2つ間違いが隠れています。次の5つの選択肢の中から、間違いを選んでください。

旧石器時代には……

1. 狩りに犬を連れていた。
2. オオツノジカがいた。
3. 槍を使っていた。
4. 日本列島と大陸は地続きだった。
5. 大阪と四国は地続きだった。

歴史クイズに答えると、正解者の中から抽選で1名様に「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表はガイドブックの発送に替えさせていただきます。

### 応募方法

4月28日(木)までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係(〒576-0052 交野市私部2-29-5、e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp) 問い合わせ 文化財事業団(Tel.893・8111)

来て 見て 触れて

# むかし探検

No.2  
～縄文時代の暮らし～

氷河期の終わり頃で寒かった旧石器時代には、スギなどの針葉樹林帯が日本列島に広がっていましたが、縄文時代になると温暖化が進み、東日本では落葉樹林帯、西日本では照葉樹林帯が増加しました。

現在の交野にも緑が多く残されていますが、それとは比べ物にならないほど、多くの木々が生い茂っていたでしょう。

そしてこれらの木々は、ドングリなどをはじめとしたさまざまな食糧を人々にもたらしました。

縄文時代になると、日本では初めて土器が作られるようになりました。

縄文時代の土器は、縄を土器の表面に押し当てることにより、独特の文様が作られていたことが



名前の由来ですが、現在では、縄以外の物や技法で作られた土器もあることが分かっています。

この土器が使われることで、縄文時代の人たちの食生活が画期的に変わりました。

土器が無かった頃は、食べ物は生のまま食べるか、火で焼いて食べるかしかなかったのですが、当時は食料となるものが限られていたので、それでおいしく食べられるものは少なかったのです。

しかし、土器を使うことでお湯を沸かせ、それで食べ物を煮たり炊いたりできるようになりました。先程紹介したドングリも、煮て柔らかくすることで、おいしく食べられるようになります。土器を利用した新しい調理法で、食べられる物の種類が大きく増え、縄文時代の人たちの生活が大きく向上したことは間違いのないでしょう。

## ハンター・ギャザラー

市内での縄文時代の出土物には、下写真の弓矢のように使われたとみられる石鏃が、多く見つかっています。このことから、縄文時代の人たちも、旧石器時代と同じく狩猟をしていたことが分かります。

また、捨てられた貝殻が積もってできる貝塚が、東北や関東地方でできていたのも縄文時代なので、漁などで魚介類も多く採っていたことも分かります。

それに加え、先程紹介したとおり、森からドングリなどの植物の食べ物も採集していま



縄文時代の石鏃

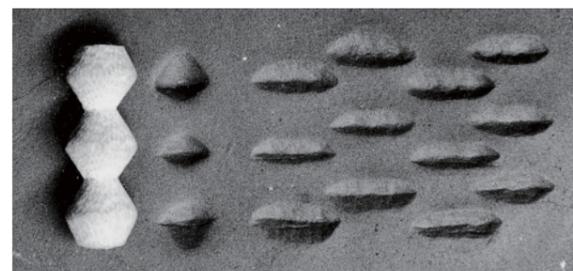
したから、縄文時代の人たちは、狩猟・漁・採集をすることで季節ごとのいろいろな食べ物を確保していたようです。

こうした生活をする人たちを「ハンター・ギャザラー（狩猟採集民）」といいます。

## 神宮寺式土器

神宮寺遺跡で、旧石器時代の石器の他に、縄文時代の炉の跡や土器が見つかりました。

ここで見つかった土器には、下の写真のような形の棒を押し当てて文様を施している特徴があります。また、貝殻のギザギザした部分を押し当てて文様を作っているものもあります。



押型文の型

この土器が見つかった頃は、縄文時代の研究が始まって間もなかったため、近畿地方で同じような特徴がある土器は、発見されていませんでした。そのため、発見された地名をつけて、「神宮寺式土器」と命名され、近畿地方の縄文時代初めごろの時期を示す専門用語として、日本全国の研究者に広く知られることになりました。



神宮寺式土器（押型文）

## 星田旭遺跡

星田の傍示川沿いにある老人ホームの手前には「星田旭縄文時代住居遺跡」と刻まれた石碑が建てられています。

この付近から星田新池までの一帯が、星田旭遺跡です。

ここからは右写真のような土器片が見つっていますが、これらの土器は縄文を磨り消している、平底であるなど、神宮寺式とは特徴が異なります。



これは、縄文時代の中期後半から後期の初めごろの土器とみられています。

## 縄文時代を考古学してみよう

縄文時代は1,000年も続き、交野でも土器を作り、狩りやドングリなどを集めて豊かな生活が営まれていました。

今回紹介した遺跡のほかに、私部南遺跡や上の山遺跡で、貯蔵用とみられる穴などの遺構や土器が見つかっています。また、傍示への山道の途中にある南山遺跡などでも、縄文時代の石器などが発見されています。

縄文時代の遺跡や土器などは、市内の広い範囲で見つっていますが、住居の跡はどこからも見つかりません。これは、当時の生活を考古学する上で大事なことです。

縄文時代の人々は、定住する家を建てずに、季節ごとに生活や採集・狩猟のしやすい地域を移動する半定住の生活をしていたのかもしれない。

## 遺跡たんけんツアー・考古学教室参加者募集

旧石器・縄文・弥生時代の遺跡巡りと、本物の遺物を見て触れる体験教室に参加しませんか。

### ◆遺跡たんけんツアー

とき 5月22日(日)午前9時30分～正午(小雨決行)

コース いきいきランド交野⇒第2京阪道路側道⇒源氏池⇒免除川⇒神宮寺⇒いきいきランド交野

参加費 100円(保健・資料代)

### ◆考古学教室

とき 6月12日(日)午前10時～正午

ところ 歴史民俗資料展示室(教育文化会館内)

定員 先着30人

申し込み・問い合わせ 5月2日(月)から文化財事業団(Tel.893・8111、Fax.893・8168 土・日曜日、祝日はファクスで受け付け)  
※遺跡たんけんツアーと考古学教室の両方への参加が原則です。片方だけの参加の場合はお問い合わせください。

## 歴史クイズ

### 問題

交野では、現在でも田んぼの風景がまだまだ多く残されています。縄文時代の稲作は、どのような状況だったのでしょうか？

- ①縄文時代には、稲はまだ日本に伝わっていなかった。
- ②わずかに稲は伝わっていたが、水田は整備されていなかった。
- ③整備された水田で稲を多く作っていた。

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表は、ガイドブックの発送に替えさせていただきます。

### 応募方法

5月31日(火)までに、はがきがeメールに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係(T.576-0052 交野市私部2-29-5、e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp)

問い合わせ 文化財事業団(Tel.893・8111)

### 4月号歴史クイズの答え

正解は、1と4でした。  
1の解説：旧石器時代に犬の骨は見つかっていません。もっとも古い犬の骨は縄文時代のものです。  
4の解説：旧石器時代の環境についての最近の研究により、日本列島と大陸は地続きではなかったと考えられています。ただし、氷河期には氷河が橋の役割をして、列島と大陸の行き来は可能だったといわれています。

来て 見て 触れて

# むかし探検

No.3  
～稲作と争いの  
はじまり～

今回は、弥生時代の交野を紹介します。  
弥生時代という名前は、「弥生式土器」が日本列島の広い地域で用いられるようになったことからつけられました。  
弥生式土器は、全体的に明るく赤っぽい色で、硬く焼かれているのが特徴です。  
また、この時代に水田での稲作や、青銅・鉄などの金属器も広まり、現在の日本文化の基礎ができあがっていきました。



弥生式土器(南山遺跡)

## 稲作のはじまり

いきいきランド交野から京阪交野線付近までに広がる私部南遺跡から、弥生時代の水田が発見されました。

この水田は、水路も引かれるなど水田としてきちんと整備されていて、縄文時代の稲作のものとは違うものです。

私部南遺跡からは、第二京阪道路建設時の調査で、弥生時代前期の住居も発見されました。交野に稲作など、弥生時代の文化の波が、早い時期から伝わっていたことが分かります。

また、市役所別館の北に、私部城跡という中世の城跡



石包丁  
(私部城跡)

があります。この城跡の下から、弥生時代中期の土器や、稲の収穫に使う石包丁などの石器が見つかっています。このあたりにも弥生時代の水田や集落があったのでしょうか。

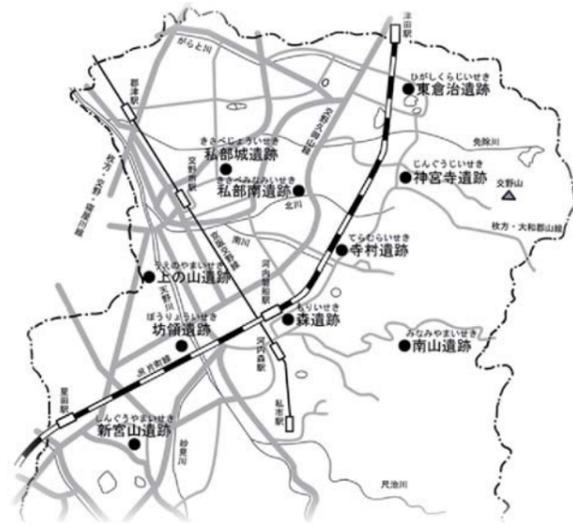
## 弥生時代の監視施設

東倉治遺跡と南山遺跡は、両方とも見晴らしの良い高い所にある遺跡です。

東倉治遺跡のある場所は、当時は山で、弥生時代の終わりごろの住居などが見つかりました。

南山遺跡は、河内森駅から傍示の里へ抜ける山の中にあります。山道沿いの崖が崩れた時に、左の写真のような弥生式土器が見つかりました。

東倉治遺跡と比べてさらに高い所にあり、「高地性集落」と呼ばれています。



弥生時代の遺跡

一般的に、高い所に作られた弥生時代の集落は、砦や緊急時に逃げ込むための「逃げ城」として使われる軍事施設だとみられています。

しかし、東倉治遺跡と南山遺跡からは、武器の出土が少ないことから、軍事施設として使われることはなかったようで、他の集落からの襲撃に備えるための監視施設だった可能性が高いと考えられています。

## 上の山遺跡の大建築物

旧石器時代でも紹介した上の山遺跡からは、弥生時代の住居の跡や墓の跡も見つかっています。この中で注目されているのが、独立棟持柱を持つ掘立柱建物です。



掘立柱建物  
(復元イメージ)

当時、ほとんどの建物が竪穴式なのに対して、この建物は高床式で、弥生時代の交野の建物の中で一番大きいものです。

この建物の形は、現在の伊勢神宮などの神社建築に引き継がれているもので、その珍しい構造と規模の大きさから、特殊な建物であることがうかがえます。

神社のようなお祀りをする場所として使われていたが、高床式で大きいことから、近隣の集落の米を保存した大倉庫だったのかもしれない。

この建物の形は、現在の伊勢神宮などの神社建築に引き継がれているもので、その珍しい構造と規模の大きさから、特殊な建物であることがうかがえます。

神社のようなお祀りをする場所として使われていたが、高床式で大きいことから、近隣の集落の米を保存した大倉庫だったのかもしれない。

## 小学生の大発見！

藤が尾小学校付近に、坊領遺跡という遺跡があります。これまで、全面的な発掘調査はされていませんが、弥生時代の遺物の多くが採集されており、集落などがあると考えられています。

3年前に、小学生がこの遺跡上の畑から、石器や石の破片をたくさん見つけました。これは、この遺跡で石器を作っていたことをうかがわせる大発見です。

## 歴史クイズ

### 問題

弥生時代の由来となった、弥生式土器という名前はどのようにしてつけられたのでしょうか？

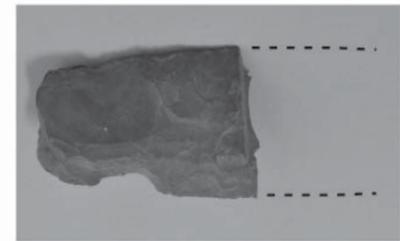
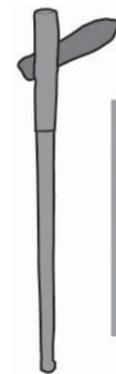
- ①考古学者の弥生さんが発見したから。
- ②3月(弥生)に発見されたから。
- ③弥生町という場所から発見されたから。

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表はガイドブックの発送に替えさせていただきます。

### 応募方法

6月30日(木)までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係(〒576-0052 交野市私部2-29-5 e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp)

問い合わせ 文化財事業団(Tel.893・8111)



石戈(坊領遺跡)

また、その中に、それまで交野では出土したことがなかった「石戈」という大発見がありました。石戈とは、上の図のように柄に対して斜めに石の刃をつけた武器です。

当時、中国の軍隊が用いていたものが伝わったようで、石や金属製のものがあります。

## 弥生時代を考古学してみよう

弥生時代は水田での稲作が始まり、のどかな印象がありますが、稲作用の土地や水などをめぐって争いが始まった時代でもあります。

しかし、交野では争いの跡は見つかっておらず、武器となる石器や金属器も少ししか見つかりません。また、私部南遺跡では継続的に水田が営まれていたことから、東倉治遺跡や南山遺跡で周辺の監視など戦乱に備えてはいたものの、比較的安定した暮らしをしていたと考えられます。

しかし、新たに武器である石戈が見つかったことから、交野の人々が弥生時代の戦いに関わった可能性が少し高まりました。

このように、一つの発見が、今まで考えられていた昔の交野の姿を変えることになるかもしれません。

### 5月号歴史クイズ 答え

正解は②です。  
解説：縄文時代には、稲の痕跡は確認されていますが、水田や水路は見つからないため、弥生時代のような稲作は行われていなかったと思われます。



来て 見て 触れて

# むかし探検

No.5  
～古墳時代の新しい暮らし～

今回は古墳時代の集落や生産遺跡などを紹介します。

古墳時代初め(3世紀中ごろ)の交野では、古墳という巨大なモニュメントが出現する一方、人々の生活は竪穴式住居が一般的な住居で、弥生時代とあまり変わらなかったとみられています。

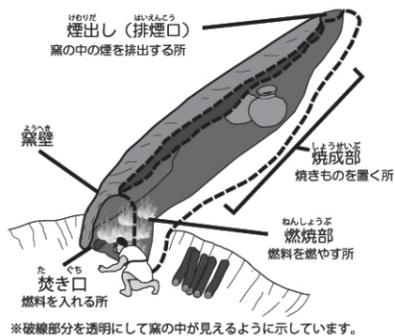
しかし、5世紀ごろになると、日本列島と中国・朝鮮半島の間で、国際交流が活発になり、海外の文化・技術が日本に伝わります。

交野にも新たな生産技術が伝わり、人々の生活が変わっていきました。

## 土師器と須恵器

交野では、古墳時代の初期は、弥生式土器に似た赤っぽい色の土師器という土器が作られていましたが、中期には日本に伝わってきた須恵器という新しい焼き物も作られるようになりました。

須恵器は、下の図のような「あな窯」という長く大きな窯を使い、1,000℃以上の高温で硬く焼き上げ青灰色に仕上げた焼きものです。



上の山遺跡と茄子作遺跡(枚方市)の調査で、遺跡近くから伝来して間もないころの須恵器の窯があった可能性が高くなりました。

また、寺地区の大谷北窯跡では、古墳時代の終わりごろの須恵器窯から出た灰や失敗品を捨てた場所が見つかっています。

須恵器は市内の集落で数多く発見されており、日常的に使われていたようです。

また、土師器にも「こしき」という煮炊きを使う新しい種類の土器が加わるなど、土器文化全体に大きな変化がありました。

## 交野は日本屈指の鍛冶集落

新たな生産技術の中で、重要だったのが、鉄を加工して道具を作り出す鍛冶の技術でした。

もともと日本で行われていた鍛冶に朝鮮半島から伝わった鍛冶技術が加わり、鍛冶生産は急速に発展します。

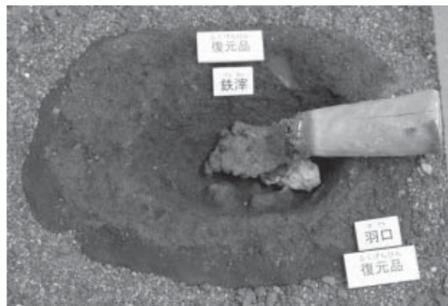
また、交野は古墳時代、鍛冶生産発展の中心地のひとつだったことがわかっています。

森遺跡の発掘調査で、羽口という鍛冶の道具や鍛冶炉、鉄滓(鉄製品をつくる時に排出される鉄くず)など鍛冶に関するものがたくさん見つかりました。

その量の多さから、交野で行われていた鍛冶生産は、当時の日本で五本の指に入る規模だったと考えられています。



▶ 鍛冶炉の様子(羽口と鉄滓は復元品)



出土した羽口

鉄は農具・工具などの生産道具から刀剣・甲冑などの武具まで、道具を作るために欠かせない素材であり、古墳時代の交野の鍛冶は、当時の日本全体で重要な役割を果たしていたと考えられます。

## ロマンあふれる謎の織機

先月号で紹介した倉治古墳群で見つかった紡錘車という糸紡ぎの道具は、森遺跡でも見つかり、集落の中で機織りに関わる作業が行われていたと見られます。



さらに、最近では上の山遺跡跡のすぐ隣にある茄子作遺跡から、とても珍しい古墳時代の織機(機織りに使われた道具)の一部が見つかりました。

発見された部材が、なぜ織機の一部だとわかるのかというと、細かい糸の痕跡が部材の表面に奇跡的に残っていたおかげで、織機の部材であることがわかりました。



出土した織機の部材(大阪府文化財センター)

木製品は、土中で腐ってしまいやすいため、発掘されること自体も貴重なことです。

また、この織機の部材は、古墳時代のものとしては、日本中でこの一例しか確認されていないとても重要な文化財です。

しかし、この部材と組み合わせるような織機の部品の発見例がほとんどないため、織機の構造や特徴については謎のままです。

ただ、古墳時代以前の日本の織機にはない部材の形をしており、古墳時代以降に新たに伝わった織機であることははっきりしています。

おそらく、須恵器や鍛冶などの技術とともに交野に伝わってきたのでしょう。

この織機の部材は、交野で千年以上昔に機織り

が行われた証拠であるとともに、日本の機織りの歴史を変える可能性を秘めた出土品なのです。

この織機の部材は、企画展示「七夕伝説と星の信仰」で展示しています。

## 古墳時代を考古学してみよう

鍛冶や須恵器などの当時の最先端の技術が導入された古墳時代の中ごろから、交野の集落にも大きな変化が起きます。

集落の規模の拡大に伴って、それまで人が住んでいなかった土地にも開発の手が及んでいたことが、最近の発掘調査でわかりました。

青山にある上私部遺跡では、当時の土中に含まれた花粉の成分を調べた結果、周辺の森林を減少させるなど、集落の発展が自然環境に大きな影響を及ぼしていたことも分かっています。

また、集落が広がっただけでなく、高床式の建物も多く建てられるようになります。

弥生時代ののどかな田園風景は一変し、古墳時代の終わりごろには立派な建物が立ち並び、鍛冶や須恵器づくりの煙が立ちのぼっていたことでしょう。

こうして開発が行われていった様子は、交野が急速に住宅都市化していった昭和の大規模な開発に匹敵するものかもしれません。

### 企画展示「七夕伝説と星の信仰」

七夕伝説の起源から、庶民の祭りへの変化や現代の七夕祭りについて、資料と写真パネルで解説します。

とき 8月14日(日)まで。午前10時～午後5時(入室は午後4時30分まで)

ところ 歴史民俗資料展示室

問い合わせ 文化財事業団(Tel.893・8111)

## 歴史クイズ

### 問題

先月号で紹介した、古墳の周りに立てて並べられた埴輪は、一部が交野でも作られていた可能性があります。

この埴輪はなぜ作られるようになったのでしょうか？

- ①いけにえや殉死の代わりに、人や動物の形をした埴輪を置くようになった。
- ②弥生時代のお祭り用のつぼなどの土器が埴輪になった。
- ③中国や朝鮮半島の風習を取り入れた。

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表はガイドブックの発送に替えさせていただきます。

### 応募方法

8月31日(水)までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係(〒576-0052 交野市私部2-29-5 e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp)

問い合わせ 文化財事業団(Tel.893・8111)

### 7月号歴史クイズ 答え

正解は、1でした。  
解説：弥生時代の円形や四角形のお墓に入るための通路が発達して前方後円墳などの形ができたと考えられています。



来て 見て 触れて

# むかし探検

No.6  
～飛鳥・奈良時代の寺院と役所～

奈良県の飛鳥に都が置かれるようになった592年から飛鳥時代が始まり、710年には平城京に都が移され、奈良時代が始まります。

奈良時代には日本全国から税として徴収された物資が都に集められており、交野(肩野)からも物資が運ばれ、交野と書かれた木簡が平城京から見つかっています。



平城京で見つかった木簡

木簡とは木の板に墨で文字を書いたもので、手紙・帳簿や荷札などに使われていました。肩野津、という所から平城京へ米が送られたという内容の木簡も見つかっています。

飛鳥時代から奈良時代の交野は、記録も少なく

謎の多い時代ですが、発掘調査により少しずつこの頃の交野の様子が分かってきています。

## 謎の古代寺院

飛鳥時代は、日本に伝来した仏教が広がり始める時代です。寺院は古墳に代わって権威を示すものとなり、日本各地の豪族たちが寺院を建設するようになりました。

交野でも、寺院の痕跡が多数見つかっています。郡津神社境内で、飛鳥時代後半から奈良時代初期ごろの瓦が発見されました。

瓦は仏教伝来とともに寺院建築の一部として伝わってきたもので、当時はまだわずかにしかなかった寺院のみに瓦が使われていました。

そのため、郡津神社の下には寺院があったことがわかりました。しかし、寺に関する記録が無い上、全体の発掘調査がされていないため、どのようなお寺だったのか謎に包まれています。

また、現在の森地区にある須弥寺は、平安時代



郡津神社内から見つかった瓦

に弘法大師により創建されたとの記録が残されています。

ところが、この記録より古い奈良時代の瓦が発掘調査により発見されました。須弥寺が建てられたのがさかのぼるか、記録に残されていない須弥寺の前身となる寺院があったとみられています。



須弥寺から出土した瓦(奈良時代)

このことから、生活に使われた建物ではなく、役所などの公共施設だったかもしれません。

さらに、遺跡からは、奈良時代のベルト(腰帯)の金具や硯が発見されました。ベルトは現代では一般的なアクセサリですが、当時は官人など一部の人が、身分を示すために身につける物でした。



腰帯の金具(私部南遺跡)

また、この頃に文字を使用するのは役所勤めの官人など、ごく一部のみに限られていたため、奈良時代の硯は役所跡やその近くで発見されることが多いのです。

整然とした建物群やベルト・硯が発見されたことから、奈良時代の私部南遺跡には、公的施設が官人の住宅があった可能性が高くなりました。

## 奈良・飛鳥時代を考古学してみよう

文献が残されていない大昔のことは、発掘された遺物のほか、地形・位置、そのときの政治情勢などを材料に推測するしかありません。

現在、交野郡衙の位置は郡津だとする説が有力ですが、そう推定した片山さんと奥野さんお二人の生前中には、残念ながら先程紹介した私部南遺跡の発掘調査は行われていませんでした。

もし、私部南遺跡の発見があったら、二人が交野郡衙の位置を推定するとしたら、どこになったのでしょうか。

このように、考古学は、見つかった「物」で歴史が変わることもありますし、見つかった「時期」で歴史が変わることもある面白いものなのです。

## 遺跡たんけんツアー・考古学教室 参加者募集

今回は主に古墳時代から奈良時代の遺跡を歩き、発見された出土品に触れながら、交野の歴史を学びます。

◆遺跡たんけんツアー  
とき 10月2日(日)午前10時～正午(小雨決行)  
コース 河内磐船駅前(集合)⇒森遺跡⇒東車塚古墳⇒大畑古墳⇒寺・塚穴古墳⇒須弥寺⇒河内磐船駅前  
参加費 100円(保険・資料代)

◆考古学教室  
とき 9月25日(日)午前10時～正午  
ところ 歴史民俗資料展示室(交野市立教育文化会館内)  
定員 先着30人

申し込み・問い合わせ 9月2日(金)から文化財事業団(Tel893・8111、FAX 893・8168 土・日曜日、祝日はファクスで受付)※遺跡たんけんツアーと考古学教室の両方への参加が原則となります。片方のみの参加の場合はお問い合わせください。

## 交野郡衙と官人たち

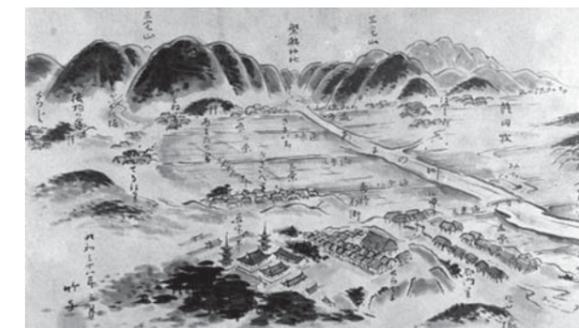
大化の改新などの大改革で、日本の大部分は現在の都道府県・市町村のような行政単位に分けられ、新しく設置された役所によって管理されるようになり、豪族たちは役所で官人として働くようになりました。

交野は、7世紀後半に北河内一帯を占める茨田郡の一部として治められるようになりました。8世紀の初めにはそこから分割されて、現在の枚方市から交野市を含む交野(肩野)郡となり、交野郡衙という役所がおかれました。

交野郡衙の場所がどこにあったのかは分かっていませんが、交野の歴史を研究した片山長三さんと奥野平次さんによると、郡津にあったと推定されています。

その根拠は「郡」という地名が残されていることや、当時の交野郡の中心に位置し、さらに安定した見晴らしの良い土地であることや、交通の便利などだったことなどです。

また、当時の郡衙の周辺には寺院が建てられることが多いので、郡津神社の地下の寺院も交野郡衙に伴うものであったかもしれません。



交野郡衙と交野(片山長三さん作)

しかし、最近の発掘調査によって、私部南遺跡から重要な発見がありました。

まず、奈良時代の建物が無数に発見され、その中には建物の柱をそろえ、整然と立ち並ぶものがあることがわかりました。その一方で日常生活に欠かせない井戸はわずかにしかありません。

## 歴史クイズ

### 問題

右の絵は、飛鳥時代と奈良時代の男女の服装をモデルにしています。①～④の人物の中から、奈良時代の服装をした人物を2人選んでください。



### 8月号歴史クイズ答え

正解は、②でした。  
解説：埴輪のように焼き物をお墓の墳丘の周りに並べる文化は、同時期の中国や朝鮮半島には見られません。また、いけにえや殉死は「日本書紀」に書かれた埴輪の起源説ですが、最初期の埴輪に人・動物型のものがないこと、考古学的に古墳時代に殉死の痕跡がないことから否定されています。

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に、遺跡と遺物を掘り出す体験ができる「発掘調査体験キット」をプレゼントします。当選者の発表は体験キットの発送に替えさせていただきます。

応募方法 9月30日(金)までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係(Tel 576-0052 私部2-29-5 e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp)

問い合わせ 文化財事業団(Tel893・8111)



来て 見て 触れて

# むかし探検

No.7  
～平安時代の交野～

794年に平安京に都が移され、平安時代が始まります。この時代には奈良時代の天皇を中心とした、律令による国のあり方が少しずつ変化を遂げ、藤原氏などの貴族が力をつけ、国の中心となって政治を行うようになっていきました。

また、国(現在でいう都道府県)を治めた国司(都道府県の知事のような人)に権力が集中するようになっていく一方で、先月紹介した郡衙はその役割を失い衰退していきます。

このころの遺跡は市内では極端に少なく、平安時代の人々の暮らしの様子はよく分かりませんが、ここ10年ほどの発掘調査でようやくその手がかりが得られるようになりました。

## 交野の荘園

奈良時代、原則として土地は天皇のものと律令(法律)に定められていました。しかし、一部に貴族や寺院が管理・所有する土地があり、これを「荘園」といいます。

荘園として認められる土地は、本来は一部の土地に限られていたのですが、貴族や寺院が勢力拡大のため荘園を増やそうとした結果、律令が変えられ、貴族・寺院が荘園を持つのが一般的になりました。

また、土地を耕作・管理している人も、荘園になると貴族・寺院に守ってもらえるというメリットがあり、積極的に土地を荘園にしようとする人も多くありました。その結果、日本各地に荘園ができました。

交野を含め、郡衙が管理していた地域も郡衙が



衰退して管理が及ばなくなるにより、荘園として管理されるようになりました。交野では、森遺跡から東側一帯が石清水八幡宮の荘園になっていたことが記録に残されています。

森遺跡の東側、現在の岩船小学校辺りは、荘園となる前の奈良時代までは生活の痕跡はほとんどありませんでしたが、ここから平安時代の終わりのころ、土地を区画する溝や井戸が見つかり、また、この溝から「施釉陶器」という珍しい焼き物のかけらがみつかりました。

これは土器にうわぐすりをかけて二度焼きすることで、光沢をもたせて美しく焼き上げるとともに、耐水性も強くしたものです。

施釉陶器は、当時の文化の中心である平安京で多く使われる一方、地方になるとあまり見られなくなるものです。



施釉陶器 (森遺跡)

これまで、どのように利用されているのかははっきりしなかったところの暮らしに、突然に平安京の文化が持ち込まれていたのです。

このような変化から、石清水八幡宮の荘園となったことをきっかけに、この地域が発展したと考えられます。

また、施釉陶器は私部南遺跡からも見つっています。

## 千年守られた仏像

飛鳥時代後半から奈良時代に広まった仏教寺院は主に平地に作られていたのに対して、平安時代に高野山や比叡山が開かれてからは、山地に築かれた山岳寺院が多くなっていきました。

交野の山々にも平安時代に山岳寺院が築かれていましたが、寺院の建物自体は残っていません。

また調査もほとんどされていませんが、次の仏像は千年近くの長い間、地域で守られてきたおかげで現代に残されています。

### ◆十一面観音立像 (星田寺)



星田の山奥に小松寺というお寺がありました。このお寺はすでに途絶えていますが、このお寺に所蔵されていた十一面観音立像が、星田寺にまつられています。

### ◆聖観音立像 (麩千手寺)



京阪河内森駅から西へ10分程歩いたところに、麩千手寺収蔵庫という建物があります。

今は失われた千手寺に所蔵されていた仏像たちがここで保管されています。この中に、平安時代後期につくられた聖観音立像があります。

### ◆薬師如来坐像 (獅子窟寺)

獅子窟寺にある薬師如来坐像は奈良時代と平安

時代の特徴を併せ持ち、穏やかな表情の仏像です。大阪府内に4件しかない国宝に指定されています。

今回紹介した仏像の一部は11月の文化財公開で、解説を聞きながら周近で見ることができます。



## 東高野街道のにぎわい

現在の生活の中にも、平安時代の名残を残しているものがあります。平安京から高野山にお参りするのための高野街道のうち、もっとも東に位置する東高野街道が交野を通過しています。この道は河内国の中心部にも通じていたため、多くの参拝客が通行する以外にもさまざまな目的で利用され、にぎわいをみせていたことでしょう。東高野街道は、アスファルト舗装をされたり一部経路が変わりながら現在でも使われています。

市内の地形に沿って紆余曲折する細い道には、東高野街道と同じくらい古くからある道もあります。こうした古い道を調べると交野の隠れた歴史をたどることができるかもしれません。

## 平安時代を考古学してみよう

先月号で紹介した私部南遺跡には、平安時代も数は少なくなるものの大きな建物が建てられており、施釉陶器も見つかっていることから平安京の文化を取り入れた人々が交野に暮らしていた証拠が見つかりました。

和歌や文学作品に登場しつつも、詳しいことがわからなかった平安時代の交野について今後も新たな発見があるかもしれません。

## 歴史クイズ

### 問題

平安時代の女性の服装は、色とりどりの衣を何枚も重ねた華やかなものになります。

このイラストのような装束はなんと呼ばれているでしょうか。

- ①十一単 ②十二単 ③十三単



### 9月号歴史クイズ答え

正解は、①と④でした。  
解説：飛鳥時代や奈良時代の官人の服装についてはわかっていないことが多いのですが、高松塚古墳の壁画や、官人の服装について書かれた文書から推定されています。

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に、「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表はガイドブックの発送に替えさせていただきます。

応募方法 10月31日(月)までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団 広報プレゼント係(〒576-0052 私部2-29-5 e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp)。

問い合わせ 文化財事業団(Tel.893・8111)



来て 見て 触れて

# むかし探検

No.8  
～鎌倉時代の  
パワースポット交野～

鎌倉時代は、貴族に代わって武士が政権を取った時代です。平安時代終わり頃から、武士の勢力が大きくなり、中でも平氏と源氏の一族が台頭していきます。

1185年には、源氏の頭領である源頼朝が、荘園や公領を管理する守護・地頭という役職をつくり家来の武士を任命しました。さらに1192年には鎌倉に幕府を開き、名実ともに武士が国を治める時代となります。

## 岩倉開元寺

江戸時代の書物に、南岩倉開元寺というお寺の跡が交野山にあったと記されています。

江戸時代にはすでに無くなっているこの寺院がいつ頃からあったものなのかを探るため、郷土史家の片山長三さんと古文化同好会が発掘調査しました。



その結果、出土した建物跡や古瓦などから、鎌倉時代にはすでに交野山に寺院があったことが明らかにされました。

岩倉開元寺の名残は、現在でも交野山に見ることができます。神宮寺から交野山に登る道には、石に刻まれた仏が置かれていることから「石仏の

道」と呼ばれています。この中で一番古いものは、鎌倉時代の弥勒菩薩仏で、岩倉開元寺が開かれた場所に置かれたものです。

## 皇族御用達のお寺

文献によると獅子窟寺は、鎌倉時代に皇族の人々が病気の療養などを祈願して訪れたと伝えられていて、とても有名な寺院だったことがうかがえます。

また、獅子窟寺の近くに、「王の墓」と呼ばれる2つ並んで置かれた鎌倉時代の石塔があり、獅子窟寺を訪れた亀山上皇の遺骨の一部が納められていると伝えられています。

鎌倉時代の獅子窟寺の瓦は、材料の粘土は交野付近のものですが、作り方や文様をつけるために使われた型が、奈良にある薬師寺のものと同じ形をしています。

このことから瓦工人が薬師寺から交野へ出張していたと考えられ、奈良の有力寺院と獅子窟寺の間に強いつながりがうかがえます。



獅子窟寺の瓦（鎌倉時代）

## 歴史クイズ

### 問題

鎌倉時代、平安貴族が主に身につけていた衣服が幅広い人々にも広まります。

中でも特に大流行し、たとえ盗賊におそわれても身につけていたといわれるものは次の内どれでしょうか？

- ①履き物 ②女性の腰帯 ③男性の帽子



### 10月号歴史クイズ答え

正解は、②でした。  
解説：正式な名前は五衣唐衣裳といいますが、後世に誤って十二単と使用されたものが広まり、本来の名前より一般的になったものとされています。

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に、「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表はガイドブックの発送に替えさせていただきます。

応募方法 11月30日(水)までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係(〒576-0052 私部2-29-5 e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp)

問い合わせ 文化財事業団(Tel.893・8111)

## 天才仏師・快慶の仏像

八葉蓮華寺は傍示に古くからあるお寺です。お堂に残された仏像の調査のために台座から仏像を外すと、「ほぞ」という部分に「巧匠安阿弥陀仏」と書かれています。これはなんと、鎌倉時代を代表する仏師である、快慶のサインであることがわかりました。



ほぞ部分（阿弥陀如来立像）

仏像の内部に納められていた文書の内容や、仏像の作風からも、快慶の作であることが確認でき、傍示の里のお堂に静かに眠っていたこの仏像は一躍脚光を浴び、国の重要文化財に指定されました。



この仏像は、11月20日に行われるクリーニング作戦で無料公開されます。

## 鎌倉時代の集落

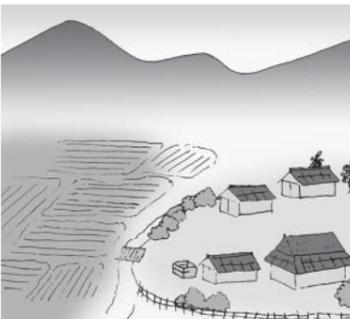
有池遺跡には以前から、機物神社の南側に面して鳥居があったことから、神社の南側に人が住んでいたという言い伝えがあり、まさにその言い伝えどおりに発見された鎌倉時代以降の中世の遺跡です。

特に大きな発見は、幅広く深い溝に囲まれ、防衛に適した鎌倉時代の屋敷跡があったことです。

大きく深い溝は、奈良や平安時代の交野の集落にはないので、武士や地元の豪族、寺院などによる土地の権利などを巡る争いに備える必要があった鎌倉時代ならではの構造といえます。

この屋敷に住んでいた人が武士であるかはわかりませんが、当時の有力者が暮らした場所であったことは間違いありません。

また、いきいきランド交野の南側一帯の耕作地に下に眠っているのが今井遺跡です。JR片町線の拡張工事が行われた時に、鎌倉時代の遺物が見



つかりました。ここからは下駄が出土しています。まるで最近まで使われていたように見えますが、交野で見つかったのもっとも古い下駄です。



鎌倉時代の下駄（今井遺跡）

他にも枚方の樟葉や奈良で作られていた土器が見つっています。この土器は、有池遺跡からも見つっています。

有池遺跡からは、常滑(愛知県)や備前(岡山県)で焼かれた陶器も見つっています。この頃交野に暮らした人々が、日本各地と交易を行いながら生活を成り立たせていたことがわかります。

## 鎌倉時代を考古学してみよう

800年前の鎌倉時代、交野の山々は神秘に満ちた土地として栄え、現在にも当時の寺院の名残が残っています。山の所どころに残る平坦な場所にはお寺の建物が建っていたと推測され、そこでは今でも中世の古瓦が見つかることがあります。

また、鎌倉時代から盛んに作られ始めたお地蔵さんは現在も地域で大切に守られており、私市の共同墓地には府内でも最も古い、弘安四年(1281年)と刻まれたお地蔵さんがいます。

もしかするとみなさんの近所にある、普段見慣れたお地蔵さんも、その由来や特徴を詳しく調べると鎌倉時代のものかもしれません。

## 遺跡たんけんツアー・考古学教室 参加者募集

今回は私部城跡を中心に中世の交野に関連のある場所を歩き、平安時代から安土桃山時代までの遺物に触れて、交野の歴史を学びます。

### ◆遺跡たんけんツアー

日時 11月27日(日)午前10時～正午(小雨決行)

コース 交野市駅バスロータリー側(集合)⇒私部城⇒光通寺⇒無量光寺⇒住吉神社⇒でがしる遺跡⇒交野市駅

参加費 100円(保険・資料代)

### ◆考古学教室

日時 12月4日(日)午前10時～正午  
ところ 教育文化会館(倉治図書館横)

参加費 無料

定員 先着各30人

申し込み・問い合わせ 11月1日(火)から文化財事業団(Tel.893・8111、FAX 893・8168 土・日曜日、祝日はファクスで受付)※遺跡たんけんツアーと考古学教室の両方への参加が原則です。片方のみの参加の場合はお問い合わせください。

来て 見て 触れて

# むかし探検

No.9  
～戦国時代の戦乱の中で～

室町時代は守護大名の力が強く、幕府の権威は畿内やその周辺にしかとどきません。15世紀になると、ますますその権威は失墜し、応仁の乱(1467年)を契機に日本各地で戦乱がおこり、戦国時代となります。

また、室町時代は茶の湯や生け花など、現代に伝わる文化が盛んになった時代でもあります。

## 私部城跡

私部城は、一時期は河内国の守護も務めた安見氏の居城として築かれた平城で、織田信長の活動を記録した書物「信長公記」に交野城として登場しますが、現在は私部城と呼ばれ親しまれています。

信長公記には信長方の軍勢となっていた私部城の安見氏が、敵対する三好氏の軍勢に取り囲まれ窮地に陥った際に、信長の軍勢が私部城へ救援に駆け付けたことが記されています。

城は、三つの郭の他に、周辺に砦や土塁の跡らしき高まりや、濠のように利用されていた可能性のある河川やくぼみが今も残されています。

私部城は郷土の大事な文化財であるとともに、

府内の数少ない平城の良好な保存例として、また戦国時代の歴史を知る上でも重要な文化財です。

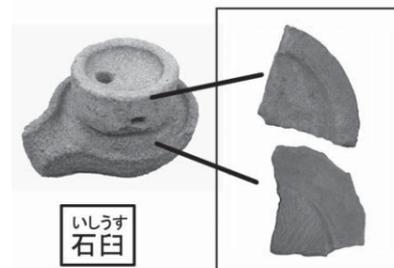
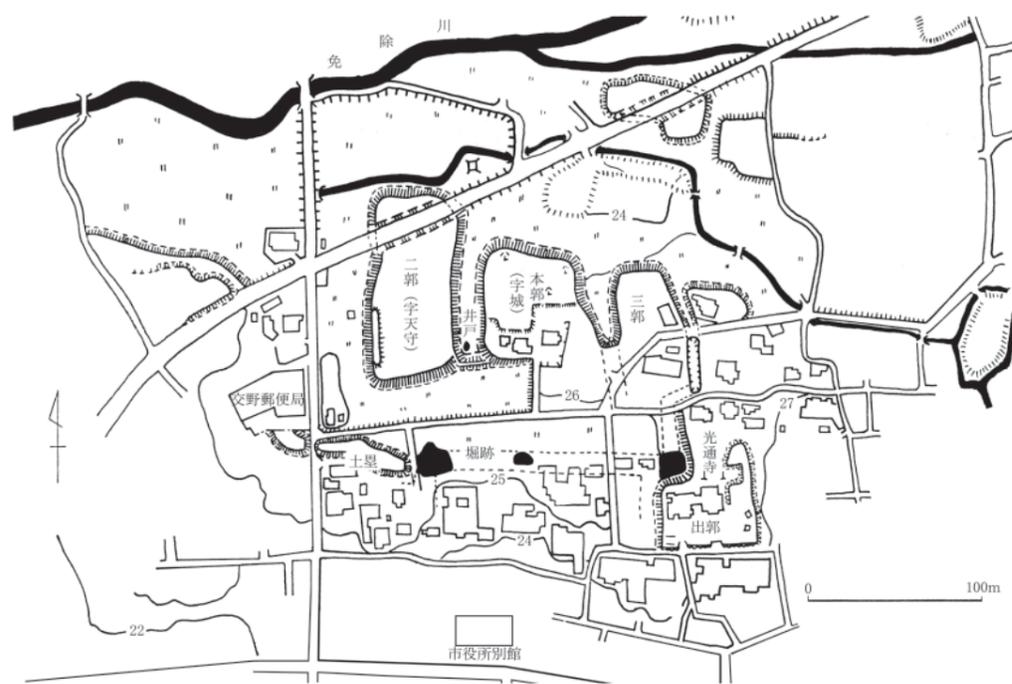
## 光通寺の威光

光通寺は、禅宗のお寺で、茶の湯が盛んなお寺でした。慶長9年(1604年)の「伝奏披露状女房奉書」によると、光通寺から朝廷へ、正月にお茶を献上するのが習慣となっていることが記されています。

戦国時代には、茶器のために命を落とす人もいられるほどお茶は重要なものだったので、朝廷へお茶を献上する光通寺の役割の大切さが分かります。

そんな光通寺を、私部城の安見氏が大きく荒らしたという記録が残されています。下図の通り、私部城と光通寺はすぐ近くにあり、光通寺の領地を私部城が取りこんでいったのです。

それを裏付けるものとして、私部城の発掘調査では、石造物や瓦など、お寺にあるものが捨てられた穴が見つっています。この穴の中からは、茶葉を抹茶にするための石臼が発見されており、茶の文化に通じていた光通寺の様子がうかがえます。



石臼の欠片(私部城跡の穴から)

なお、茶の文化に通じていた光通寺によるものか、廃城となった私部城跡では昭和の半ばごろまで茶葉が栽培されていました。

まれることはありませんでしたが、地層から大地震による被害の痕跡が見つっています。

その地震とは、豊臣秀吉の居城であった伏見城を倒壊させた慶長伏見地震(1596年)のことで、この地震によるものと考えられる液状化現象の痕跡(下写真)が残されています。液状化現象とは、地下の砂が液体化し、地上に噴き上がることです。



幸いなことに、近年の災害からは免れている交野ですが、有池遺跡の地震の痕跡から学び、災害に対する備えを考える必要があるでしょう。

## 室町～安土桃山時代を考古学してみよう

応仁の乱から始まる戦国時代の動乱期には、交野も戦乱に巻き込まれ、大地震も起こるなど、交野の歴史の中でも最も苦労の多かった時代です。

そんな戦乱の記憶を今に伝えているのが、私部城です。現在は徐々に開発が及んでいますが、平地に残る城跡としては、府内で随一の残り具合です。城跡の地形を詳しく観察すると、私部城がどのように築かれていったのかや、安見氏救出の際に信長軍がどのような布陣を敷いていたのかといった歴史の謎が見えてくるかもしれません。

## 戦乱を潜り抜けた仏像

戦国時代の戦火は交野各地に及んだようで、交野にあった仏像の多くも焼き捨てられてしまったと考えられています。

その中で、難を逃れた室町時代の仏像として、星田の薬師寺にある薬師如来立像や星田の有力者によって作られたとみられる千体仏があります。

私市にある廃千手寺には如意輪観音坐像(左写真)が残されています。寺の名前が「千手寺」というくらいなので、本来の本尊は千手観音であったのでしょうか、いつの頃から戦乱で失われ、現在の如意輪観音を本尊としたのでしょうか。



## 大地震の痕跡

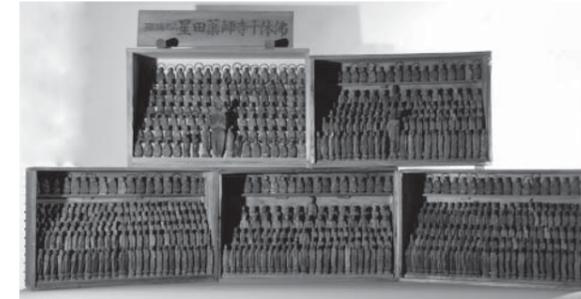
先月号で紹介した有池遺跡は、15世紀には集落が途絶え、その後現在に至るまで集落が再び営

## 歴史クイズ

### 問題

星田の薬師寺に現存している千体仏の数はいくつあるのでしょうか?

- ① 52体
- ② 671体
- ③ 3,000体



### 11月号 歴史クイズ答え

正解は、③でした。解説：鎌倉時代で大流行した帽子も、室町時代になると一般の人々の中での流行はおさまっていました。

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に、「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表はガイドブックの発送に替えさせていただきます。

**応募方法** 12月31日(土)までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係(〒576-0052 私部2-29-5 e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp)

**問い合わせ** 文化財事業団(Tel.893・8111)

来て 見て 触れて

# むかし探検

No.10  
～江戸時代の交野～

徳川家康が1603年に江戸幕府を開き、天下太平の世が260年余り続きました。この平和な時代の中、交野も各地域に村が栄えてきます。これらの村々は、現在の交野の町の原型になっています。

## 徳川家康と交野

星田は徳川家康と深い関わりがあります。本能寺の変が起こったとき、家康は堺にいました。敵の追手から逃れ、本拠地の三河に帰る途中、星田の庄屋である平井家の協力を得たといわれています。

家康は星田山中（現在の妙見坂）の藪に身を潜め、一晚を明かし、星田村の道に詳しい者たちに案内されて大坂から逃げ延びたと言われています。このときの藪として伝えられているのが、妙見坂小学校の裏手にある「伝家康ひそみの藪」（写真下）です。



また、豊臣家との最後の戦いである大坂夏の陣のときには、家康は星田の新宮山（現在の星田公園）に陣を張り、平井家で宿を取って、戦に向かいました。この戦で家康は勝利し、徳川幕府はゆるぎないものとなりました。

新宮山には、家康が陣を張ったときに旗をかけた松が残されていました。当時の松は失われてしまいましたが、代わりに植えられた2代目の松の姿を見ることができます。

その後、この宿陣の話を後世に伝えようと、江戸時代の終わりの寛政11年に建てられたのが神祖宮趾之碑です。

この石碑の建立には幕府の中心人物も関わっており、幕府の権威を高めるという意図もあったことが伺えます。

## 立派な代官・庄屋屋敷

国の重要文化財である北田家住宅は私部村の代官・庄屋の屋敷として建てられました。民家としては、最大級の長さを誇る長屋門や立派な母屋など、豪華で壮大な代官屋敷の姿がそのまま現代に残されています。長屋門の外観を眺めるだけでも江戸時代の気分を味わうことができますが、毎年春と秋に長屋門や母屋の内部を一般公開しています。

また、寺村の名家である山添家は茅葺き屋根の立派な住宅です。



山添家

これは山添家が江戸時代に寺村の庄屋を務めていた当時から残されているもので、北河内の庄屋の住居として国の重要文化財に指定されています。現在は一般公開を中止していますが、その昔懐かしい茅葺き屋根は近隣の路上から眺めることができます。

## 札の辻橋

北田家住宅から北へ下ったところにあるのが札の辻橋です。法令などを掲示する「高札」がこの近くで立てられたことからこう呼ばれています。

また、ここで掲げられていた高札は、歴史民俗資料展示室で見ることができます。



クリスチアン高札

## 当時盛んな河内木綿

当時の河内地域では、木綿生産が盛んで、河内木綿として有名でした。交野でも和綿の栽培から木綿製品の生産までが行われていました。

交野の木綿づくりは行われなくなりましたが、教育文化会館では機織り教室のみなさんが当時の技術を再現しながら日々作品を製作しています。



機織り教室の様子

## 交野の瓦が全国へ

江戸時代の交野の主要な産業の一つが瓦づくりで、現在の市役所周辺には瓦工房が軒を連ね、瓦造りの白煙が立ち上っていたといえます。

この名残として現在でも市内の大きなお寺などには江戸時代とほぼ変わらない屋根瓦が残されています。

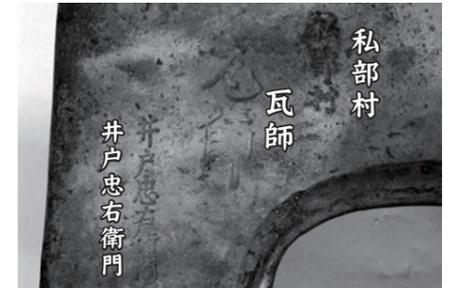
当時の交野の瓦師は自分の名前を瓦に刻印していました。これを見ていくと、市内に限らず交野の瓦が広く出荷されていたことがわかります。たとえば、京都の西本願寺や、神奈川県の小田原城にも交野産の瓦があることが知られています。

教育文化会館では、1月29日（日）まで江戸



寺村から出土した瓦

時代の交野を代表する産業であった瓦を紹介する企画展「交野の瓦」を開催しています。



名前の刻まれた瓦（私部村）

## 江戸時代を考古学してみよう

時代劇などを見ていると江戸時代は、遠い昔のことのように思われるかもしれませんが、当時の村々の道や水路・石垣・建物などは遺跡として地中に埋もれるのではなく、現在の町並みにも引き継がれています。

今回紹介できませんでしたが、倉治などの地区にも当時の町並みがよく残されています。みなさんも近所に江戸時代から続くものがないかを探してみましょ。

**企画展「交野の瓦」**

と き 1月29日（日）まで。午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

ところ 歴史民俗資料展示室

※月・火曜日、祝日は休館。

問い合わせ 文化財事業団（TEL893・8111）

## 歴史クイズ

### 問題

江戸時代の乗り物である駕籠は、中に人を乗せて2人が担いで運ぶ、現在のタクシーのようなもので、特に急ぐ時には早駕籠を使用しました。有名な「忠臣蔵」では江戸から赤穂まで（約620\*）を早駕籠で移動しましたが、一体何日かかったのでしょうか？

- ① 4日間半 ② 9日間 ③ 14日間



北田家に残る駕籠

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に、「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表はガイドブックの発送に替えさせていただきます。

**応募方法** 1月31日（火）までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係（〒576-0052 私部2-29-5 e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp）

**問い合わせ** 文化財事業団（TEL893・8111）

### 12月号 歴史クイズ答え

正解は、②でした。  
解説：途中で作るのをあきらめてしまったのか、それともどこか別の場所に眠っているのか、千体そろっていない理由は分かっていません。



来て 見て 触れて

# むかし探検

No. 111  
～明治から昭和へ～

明治時代は、西洋の文化を取り入れる文明開化が進み、日本も近代国家として国際社会へと歩み出します。



**明治の交野の村**  
誕生しました。昭和30年、交野町と星田村が合併し、現在の交野市の前身となる交野町が誕生し、昭和46年に交野市となりました。

江戸時代以来続いてきた交野の村々は、明治21年に、交野村(それまでの郡津村・倉治村・私部村)、磐船村(それまでの寺村・森村・傍示村・私市村)、星田村の3つにまとめられます。

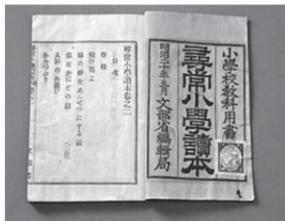
昭和14年には交野村と磐船村が合併し、交野町が

## 進む近代化

明治時代以降、市内の近代化が進み、現在の暮らしにつながる基盤が出来上がっていきます。

明治の初めに学校教育の土台ができ、私部と星田に交野で初めての小学校(尋常小学校)が置かれました。

また、明治31年に関西鉄道株式会社が四條畷・長尾間の営業を始め星田駅ができます。これが現在の学研都市線の前身となります。



尋常小学校読本



寺地区からの風景(昭和42年ごろ)

## 交野の発明家

明治時代は、全国各地で繭の生産が盛んで、交野でも多く作られていましたが、そのほとんどが長野の製糸工場に送られていました。私部村に住む原田元治郎さんは、そこに目をつけて明治14年、「原田織機」という交野で初となる工場を作りました。

その後、日清戦争が終わり、全国的に産業発展が進む中、原田さんは機械の力を利用してさらに生産性の高い綿織機を作ろうと、私財を投じて織機の開発を進めました。

そして、明治30年に「原田式動力織機」という綿織機を開発しました。

当時、他にも動力織機はありましたが、原田式動力織機はその実用価値を認められ全国に広まっていきました。中でも大阪南西部の泉州では原田式動力織機が広く採用され、綿布・タオル機業発展のもととなりました。また、原田式動力織機は滋賀県で蚊帳の製造にも使われました。

このような日本の紡績業の発展に貢献した功績をたたえられ、原田さんは藍綬褒章を受章(1917年)しています。



原田式動力織機(模型)

## レトロモダンな建物

西洋の文化が取り入れられる中で、次第に江戸時代以来の交野の町並みも変わっていきます。

その当時の名残を残す建物が、倉治にある交野市立教育文化会館です。

昭和4年に現在の近畿大阪銀行の前身の一つである交野無尽金融の本社屋として建設されました。当時としては珍しい鉄筋コンクリートで堅固なつくりをしています。

また、アーチ状の窓枠や屋上の手すり壁の形などに中世ヨーロッパのお城の特徴が取り入れられています。壁一面に張られたスクラッチタイルは、当時の大学や金融機関などの建物で流行したものの



交野無尽金融本社(昭和4年竣工当時)

で、タイルは1枚1枚微妙に異なる色調があり、石造りの建物のような風合いを見せています。

後に旧交野町に寄贈され、一時期は町役場として利用されていました。

北河内地域では数少ない良好な近代建築として、国の登録文化財となっています。

## 戦争の記憶

日本は明治から昭和にかけて多くの戦争を体験しました。太平洋戦争末期には、大阪市内が大規模な空襲に見舞われ、この交野の上空でも米軍機と日本軍機が交戦しました。

この戦争の記憶を残す遺物が第二京阪道路建設時に発見されました。「飛燕」という戦闘機のエンジンや機関銃、プロペラなどの一部です。

昭和20年の7月に、米軍の戦闘機と交野上空で交戦した一機の飛燕が墜落しました。このとき地中深くにもぐりこんでしまった戦闘機が60年以上もの時間を経て平成17年に発見されまし



戦闘機「飛燕」の機関砲

た。これらの部品は薄れつつある戦争の記憶を今に伝えるものとして、いきいきランド交野に展示されています。

## 交野の考古学のはじまり

この時代は交野市民による考古学が始まった時代でもあります。のちに郷土史家として有名になった片山長三さんは明治時代から市内の各遺跡で遺物を探していました。昭和26年には現在の枚方変電所建設時に倉治古墳群が発掘調査されたことをきっかけに、片山さんや奥野平次さんを中心に市民による「交野考古学会」が作られます。この会はいくつもの発掘調査を行い、その成果は交野市史にも記されています。

戦後の市民による歴史研究をめざした活動と、市民が考古学などの学問を通じて広く交野の歴史を学ぶ活動は、現在の交野市古文化同好会などに引き継がれています。

## 明治～昭和時代を考古学してみよう

明治から昭和の激動の時代の中で、交野にもめまぐるしい変化が訪れ、人々の暮らしがどんどん変わっていきます。当時の資料を知る場所として、教育文化会館があります。さまざまな生活道具などが展示されていますので、ちょっと昔の暮らしの様子や出来事を知りたいときはお気軽にお越しください。

### 歴史探検ツアー＆考古学講座

昔の町並みが残る倉治を巡り、交野の代表的な近代建築の建物、教育文化会館で展示されている発掘出土品に触れて学びます。

とき 2月26日(日)午前10時～正午  
集合 午前10時にいきいきランド交野  
問い合わせ 文化財事業団(Tel.893・8111)

## 歴史クイズ

### 問題

今月紹介した教育文化会館は、ある有名な近代建築と似ていることが知られており、設計時に参考しているのではありませんかといわれています。その建物とはどれでしょうか？

- ①旧大阪府庁の本館
- ②大阪市中央公会堂
- ③早稲田大学の大隈講堂

歴史クイズの正解者の中から抽選で1名様に、「ジュニア文化財ガイドブック」をプレゼントします。当選者の発表はガイドブックの発送に替えさせていただきます。

応募方法 2月29日(水)までに①答え②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係(Tel.576-0052 私部2-29-5 e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp)

問い合わせ 文化財事業団(Tel.893・8111)

### 1月号歴史クイズ答え

正解は、①でした。  
解説：早稲田で江戸から赤穂までの620里を、4日半(1日で約138里)で移動しました。徒歩による人間の移動距離が30～40里程度といわれているので、驚異的な数字といえます。

# 来て 見て 触れて

## むかし探検

最終回  
～総集編～

今回で、「来て・見て・触れて むかし探検」も最終回となりました。1年かけて探検してきた、交野の「むかし」をクイズで振り返りましょう。

### ◎ 旧石器時代 (4月号)



4万年～1万5,000年前には、交野に旧石器で狩りをおこなうハンターが活躍していました。交野山で見つかったハンターが使っていた石器とはどれでしょうか？  
①ナイフ形石器 ②有舌尖頭器(投げ矢・槍) ③ハンドアックス

### ◎ 縄文時代 (5月号)

交野では縄文時代の早期(1万1,000年～9,000年前ごろ)に土器を使って煮炊きをするようになっていました。この土器は発見された交野の地名から名前がつけられました。その土器の名前は何か？



発見された土器片

①私部式土器 ②倉治式土器 ③神宮寺式土器

### ◎ 弥生時代 (6月号)

この時代、交野にも稲作が伝わりはじめてお米が作られるようになりました。この頃の遺跡である坊領遺跡では小学生が交野

で初のある石器を発見しました。その石器とはどれでしょうか？

①石包丁 ②石斧 ③石戈

### ◎ 古墳時代 (7・8月号)

交野は府内でも多くの遺跡が築かれており、当時の日本でも有力な豪族がいたことがわかります。奈良県の箸墓古墳と共通点の多い交野の古墳はどれでしょうか？



前方後円墳

①雷塚古墳(森1号墳) ②交野車塚古墳 ③郡津丸山古墳

### ◎ 飛鳥～奈良時代 (9月号)

天皇中心の国づくりが進んでいき、奈良時代に交野郡として治められるようになり、交野郡衙(役所)が置かれました。現在、この交野郡衙があったとされているのはどこでしょうか？

①郡津～私部 ②森～私市 ③倉治～寺

### ◎ 平安時代 (10月号)

この時代の交野には荘園が置かれるとともに、現在にも続く寺院が建てられ始めています。大阪府内で4件しかない国宝の仏像の1つがある寺とはどれでしょうか？

①開元寺 ②岩倉開元寺 ③獅子窟寺

### ◎ 鎌倉時代 (11月号)

武士が貴族に代わり政権を取った時代です。多くのお寺が建てられ、交野は靈験あらたかなパワースポットとなっていたようです。



阿弥陀如来立像

傍示にある八葉蓮華寺には、とある有名な仏師がつくった仏像が残されています。その仏師とはだれでしょうか？

①止利 ②運慶 ③快慶

### ◎ 戦国時代 (12月号)

私部城(交野城)は、戦国時代の平城として大阪で間近でみることのできる唯一の城跡です。ここにはある有名な武将も訪れています。その武将とはだれでしょうか？

①織田信長 ②豊臣秀吉 ③徳川家康

### ◎ 江戸時代 (1月号)

江戸幕府を開いた徳川家康と交野には縁がありました。

徳川家康の足跡を記した『神祖宮趾之碑』が建てられたのはどこでしょうか？

①郡津 ②私部 ③星田



神祖宮趾之碑

### ◎ 明治～昭和時代 (2月号)

交野の近代化が進むとともに、多くの戦争の影響を受けた時代でもありました。交野市教育文化会館は昭和の初めに建てられました。現在は交野市内の発掘出土品などを展示していますが、最初は何に使われた建物だったのでしょうか？

①学校 ②銀行 ③役場

さて、この1年、交野のむかしを探検し、交野の意外な一面を発見できたでしょうか。まだまだむかしの謎はたくさん残っています。あなたの発見がその謎を解くカギになるかもしれません。

今回のクイズ10問に全問正解した人の中から1名様に「交野郷土史かるた」をプレゼントします。  
**応募方法** 3月31(土)までに①10問分の答え ②名前③住所④電話番号⑤あれば感想・質問を書いて文化財事業団広報プレゼント係(T 576-0052 私部2-29-5 FAX 893・8168 e-mail:bunkazai@city.katano.osaka.jp)  
**問い合わせ** 文化財事業団(Tel 893・8111)

**2月号歴史クイズ答え**  
 正解は、③でした。  
 解説：正面から見たときのスタイルが似ているうえに、この二つの建物が建てられてる時期が近いことから、早稲田大学の大隈講堂に似ているといわれています。

**交野古文化同好会 結成40周年記念講演会**  
**とき** 4月15日(日)午後2時～4時  
**ところ** ゆうゆうセンター4階 交流ホール  
**テーマ** 「古代の天の川と交野台地」  
**定員** 450人  
**参加費** 無料  
**講師** 大阪府文化財センター理事長 水野正好さん  
**[問]** 古文化同好会の村田さん(Tel 892・2326)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・室町～安土桃山時代(1392～1603年)</li> <li>・織田信長の石山攻めに無量光寺より門徒衆が参戦し、天王寺で激戦する。また倉治善通寺の一派が石山城の防御戦に加わる(1570年)</li> <li>・撰津伊丹の城主伊丹親興の一族が織田方の搜索を逃れ、傍示山に入り、定住する(1573年ごろ)</li> <li>・江戸時代(1603～1868年)</li> <li>・獅子窟寺宗徒は大坂方に加勢すべく命じられたが従わず、そのため全山焼き払われる。また、徳川勢に宿营地を与えないように、大坂方が交野地方などの村落や寺院を焼き払った(1615年)</li> <li>・交野の村々米綿ともに大不作。また、この頃の交野村で捨て子多し(1836年)</li> <li>・徳川家茂の長州再征のため、倉治他7つの村から領主に従って大坂に出陣(1865年)</li> <li>・明治～昭和時代(1868～1989年)</li> <li>・私部郷学校及び星田郷学校創立(1872年)</li> <li>・市町村制が公布され、交野村(私部・倉治・郡津)、磐船村(傍示・寺・森・私市)、星田村ができる(1889年)</li> <li>・交野・岩船村が合併し交野町となる(1939年)</li> <li>・星田村を廃し、交野町に合併する(1955年)</li> <li>・交野市となる(府内31番目)(1971年)</li> <li>・平成(1989年～)</li> <li>・ゆうゆうセンター・星の里いわふね開設(1992年)</li> <li>・いきいきランド交野がオープン(1997年)</li> <li>・第二京阪道路全線開通(2010年)</li> <li>・市制施行40周年を迎える(2011年)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後期旧石器時代(4万～1万5000年前ごろ)</li> <li>・星田布懸遺跡・神宮寺遺跡などに旧石器文化が現れる</li> <li>・縄文時代(1万5000～2800年前ごろ)</li> <li>・神宮寺遺跡・星田旭遺跡に縄文文化現れる</li> <li>・弥生時代(2800～1800年前ごろ)</li> <li>・私部南遺跡などで水田が営まれる</li> <li>・古墳時代(3世紀中ごろ～7世紀初めごろ)</li> <li>・森古墳群・車塚古墳群が造られる</li> <li>・飛鳥時代(592～710年)</li> <li>・長宝寺建立(郡津神社)</li> <li>・奈良時代(710～794年)</li> <li>・私部南遺跡(硯や腰帯の金具が発見)</li> <li>・平安時代(794～1185年)</li> <li>・獅子窟寺建立、薬師如来像造立</li> <li>・交野三宅山一帯が石清水八幡宮の荘園となる(949年ごろ)</li> <li>・星田牧が興福寺別院円成院の荘園となる(1155年)</li> <li>・鎌倉～南北朝時代(1185～1392年)</li> <li>・交野山上に岩倉開元寺が置かれる</li> <li>・有池遺跡に環濠集落がつけられる</li> <li>・平安京に遷都(794年)</li> <li>・藤原道長、撰政となる(1016年)</li> <li>・平清盛、太政大臣となる(1167年)</li> <li>・鎌倉幕府が開かれる(1185年)</li> <li>・蒙古襲来(文永の役)(1274年)</li> <li>・応仁の乱(1467)</li> <li>・織田信長、延暦寺を焼き討ち(1571年)</li> <li>・本能寺の変(1582年)</li> <li>・天保の大飢饉(1835)</li> <li>・大坂夏の陣(1615年)</li> <li>・平八郎の乱(1837年)</li> <li>・大政奉還(1867年)</li> <li>・大日本国憲法施行(1889年)</li> <li>・阪神・淡路大震災(1995年)</li> <li>・東日本大震災(2011年)</li> </ul>
---	---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・交野の出来事</li> <li>・日本の出来事</li> </ul>
--

